


令和3年度 工事検査概要

令和4年6月

 新潟市

* * * * * 目 次 * * * * *

第1 本編

1 検査業務の概要

(1) 検査業務の概要	1
(2) 検査の区分	2
(3) 検査体制	2

2 令和3年度 検査実績

(1) 検査全件数	3
(2) しゅん工検査	
(a) 割合「検査区分別」	3
(b) 割合「検査員別」	4
(c) 割合「工種別」	4
(3) 「月別」工事検査件数	
(a) しゅん工検査（検査員別）	5
(b) 出来形検査	5
(c) 完済部分検査	5
(d) 部分使用検査	6
(e) 中間技術検査	6
(4) 工事成績評定	
(a) 平均点	7
(b) 平均点「工種別」	7
(c) 評定点の分布	8
(5) 工事点検	9
(6) 技術協力	
(a) しゅん工検査	10
(b) 部分使用検査	10
(c) 中間技術検査	10
(7) 委託業務検査（完了検査）	
(a) 割合「業務分類別」	11
(b) 成績評定の平均点	11

3	過年度の検査実績	
	(1) 工事検査	
	(a) 「検査種類別」件数	12
	(b) しゅん工検査「検査員別」件数	12
	(c) 年度末(3月期)のしゅん工検査件数	13
	(2) 工事成績評定	
	(a) 「検査区分別」平均点	13
	(b) 「工事分類別」平均点	14
	(3) 工事点検実施率と改善指摘率	15
	(4) 委託業務検査(完了検査)	16
第2	まとめ<後記>	17

第1 本編

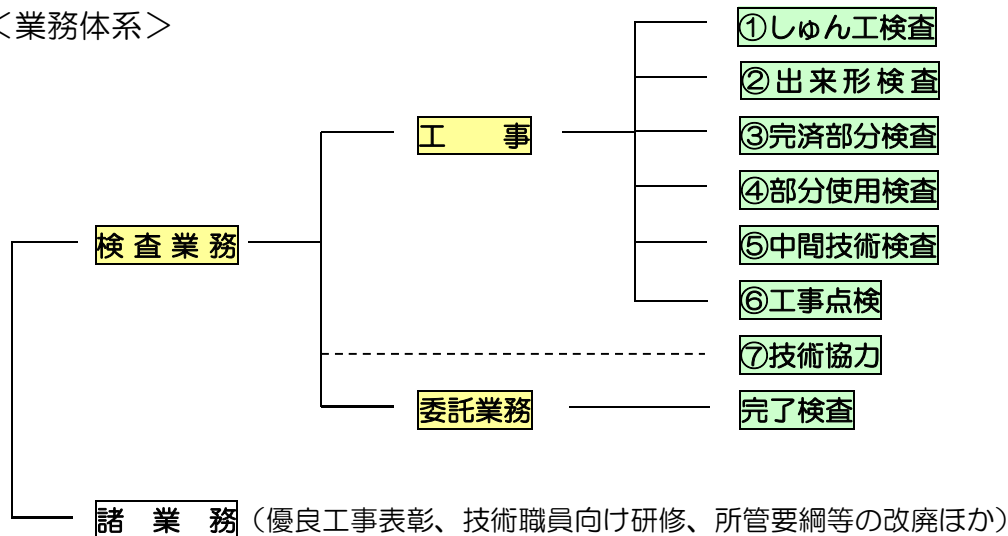
1 令和3年度 検査業務の概要

(1) 検査業務の概要

工事検査課では、当初設計金額が500万円以上の工事について、しゅん工検査をはじめとする各種検査を実施している。

そのうち、1,000万円未満は、業務効率化を図るため、工事点検業務と併せ、公益財団法人新潟市開発公社（以下「公社検査室」という。）に検査業務等を委託している。

<業務体系>



<検査等の目的>

工 事	
①しゅん工検査	工事の完成を確認するための検査
②出来形検査	ア 工事の完成前に代価の一部を支払う必要がある場合、工事の出来形部分等を確認するための検査
	イ 契約解除に伴う出来形部分等について行う検査
③完済部分検査	設計図書において工事の完成に先だち、引き渡しを受けるべきことを指定した部分がある場合において、当該指定部分を確認するための検査
④部分使用検査	工事目的物の全部又は一部を引き渡し前に使用しようとするときに当該部分を確認するための検査
⑤中間技術検査	適正かつ円滑な工事施工に資するために工事途中において行う検査
⑥工事点検	適正かつ円滑な工事施工に資するために、施工体制の確認等を行うもの
⑦技術協力	民間施設（市補助）や事業課発注・契約の市事業（DB）などの技術協力を行うもの
委託業務	
完了検査	委託業務の完成を確認するための検査

(2) 検査の区分

<検査区分>

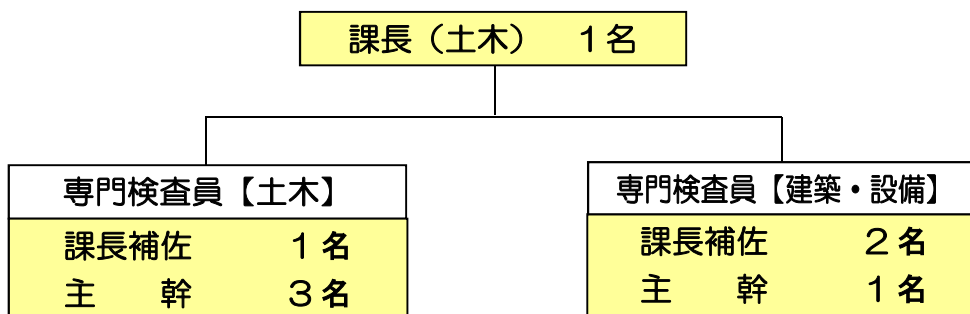
当初設計金額	250万円を超え 500万円未満	500万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上
工 事	※1 工事担当課 【確認票】	※2 公社検査室 【成績評定】	※3 工事検査課 【成績評定】
委託業務	※1 委託業務担当課 【確認票】	※4 工事検査課【成績評定】	

- ※1 当初設計金額 500 万円未満の工事及び委託業務は、工事担当課長等に検査の専決権限があるため、本概要の検査件数には含まれない。
- ※2 新築・増改築などの工事で建築・設備などに分離発注する場合において、分離発注工事のいずれかが 1,000 万円以上の場合は、全て工事検査課で検査を行う。
- ※3 当初設計金額 1,000 万円以上の工事については、専門検査員（工事検査課の職員）を中心に指定検査員（検査業務を委嘱した工事担当課の係長以上の職員）の協力を得ながら検査を行う。
- ※4 当初設計金額 500 万円以上の全ての委託業務については、委託業務担当課の指定検査員が検査を行う。

(3) 検査体制

工事（委託業務）の検査業務については、以下の体制で実施している。

《工事検査課 8名》



《指定検査員 79名》

工事担当課の係長、主幹、課長補佐級の職員に検査業務を委嘱
 農林水産部 2名、都市政策部 2名、建築部 21名、土木部 9名、
 下水道部 19名、区役所 26名

《公社検査員 8名》

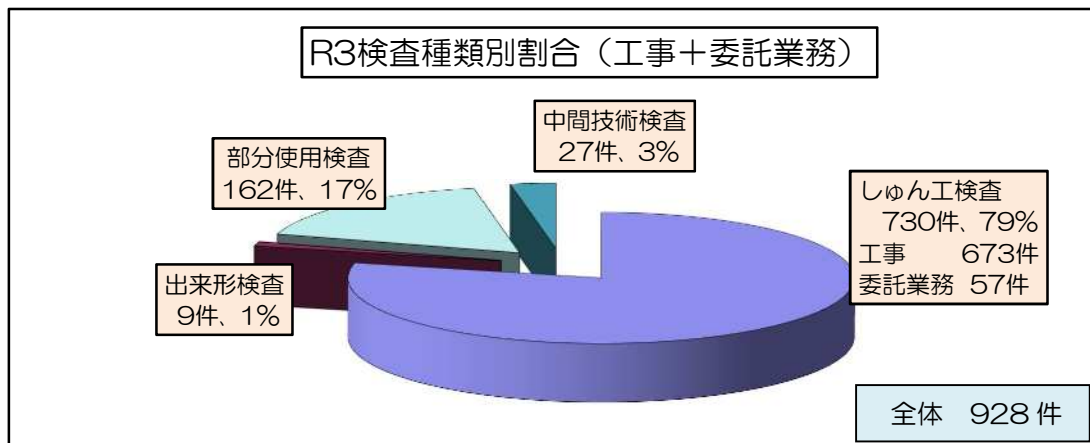
公益財団法人新潟市開発公社 検査室職員

2 令和3年度 検査実績

(1) 検査全件数

(単位：件)

検査種類	しゅん工 検査	出来形 検査	完済部分 検査	部分使用 検査	中間技術 検査	計
工 事	673	9	0	162	27	871
委託業務	57	0	0	0	0	57
計	730	9	0	162	27	928

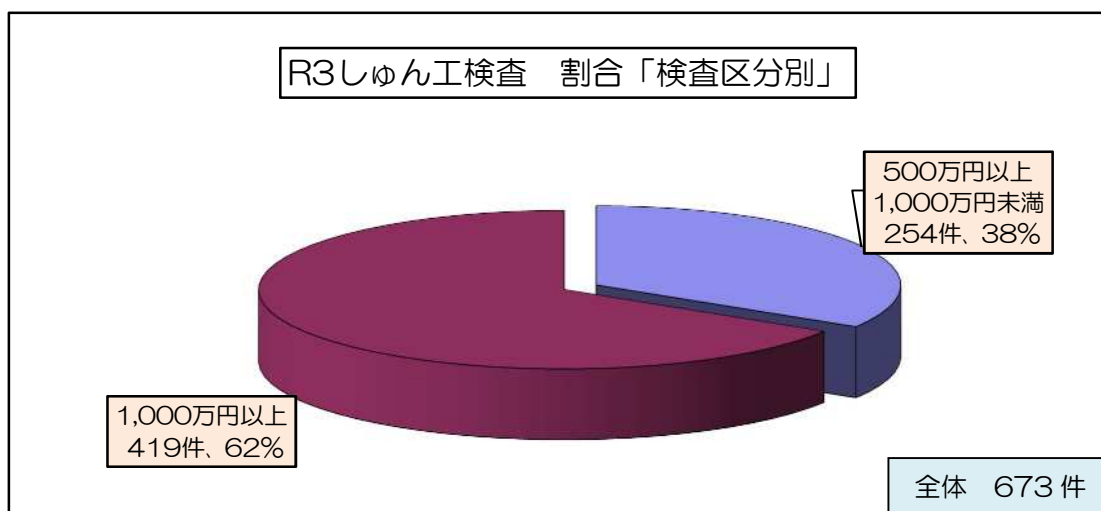


(2) しゅん工検査件数

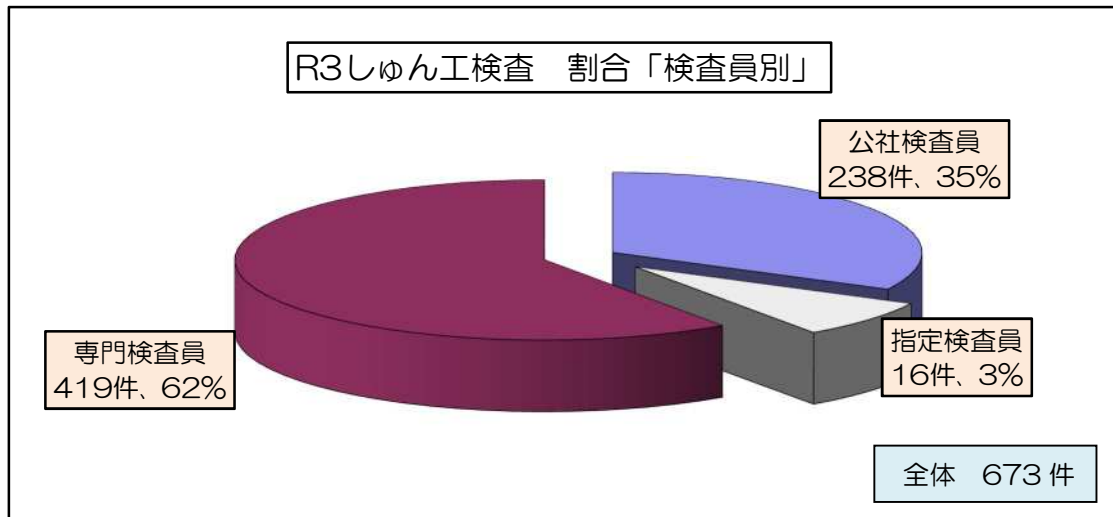
(単位：件)

当初設計金額	500万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上	計
公社検査員	238		238
指定検査員	1	15	16
専門検査員	15	404	419
計	254	419	673

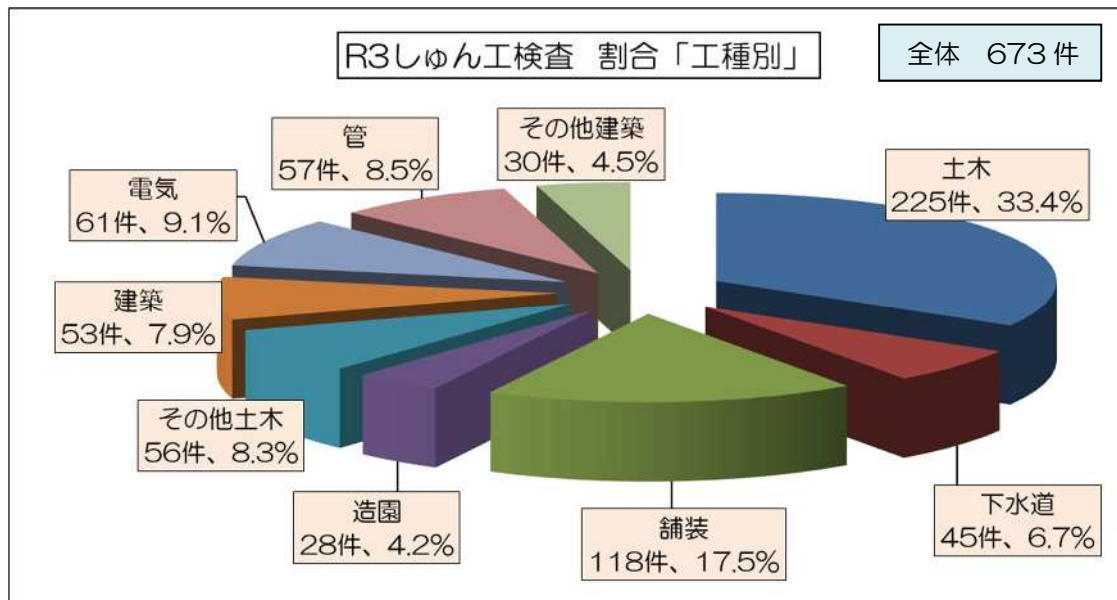
(a) 割合「検査区分別」



(b) 割合「検査員別」



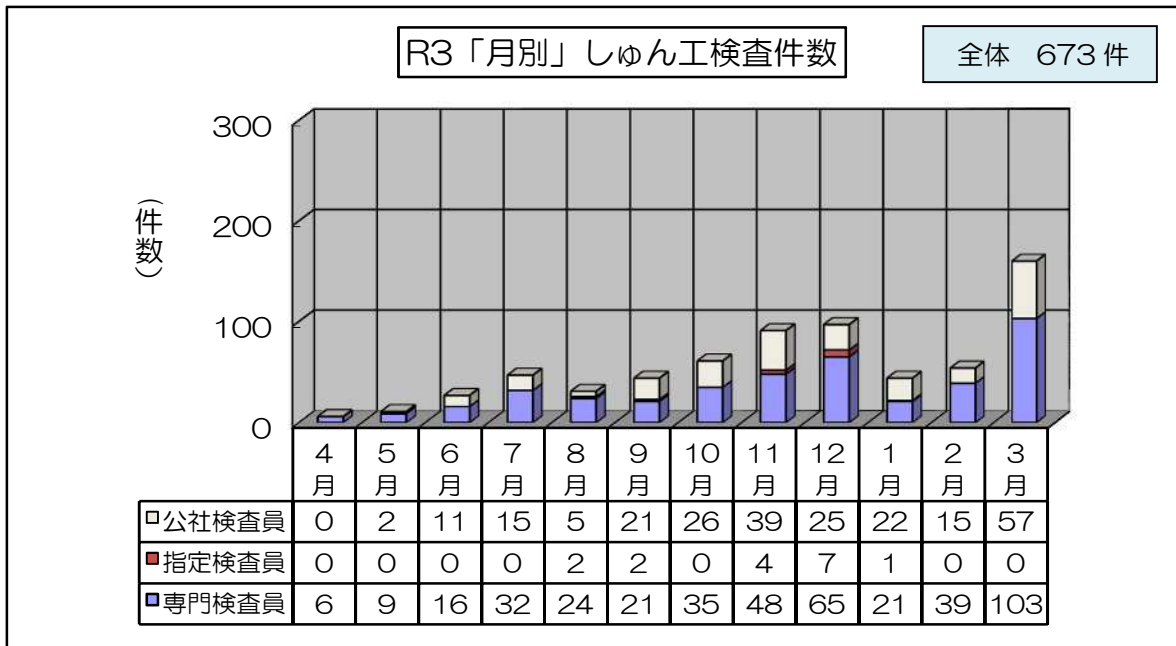
(c) 割合「工種別」



(3) 「月別」工事検査件数

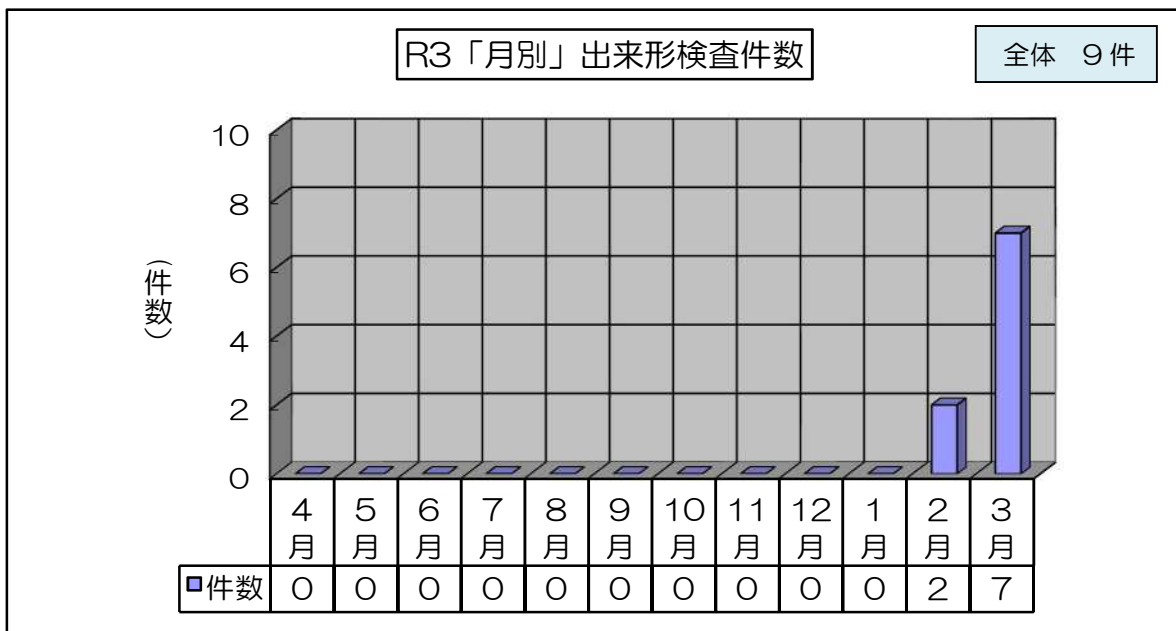
(a) しゅん工検査（検査員別）

年度末に集中する傾向があり、3月期は全体の約24%の割合を占める。



(b) 出来形検査

橋梁工事や下水道雨水管工事などで多かった。これは、複数年にわたる継続工事の部分払いを済ませようとするためのものである。

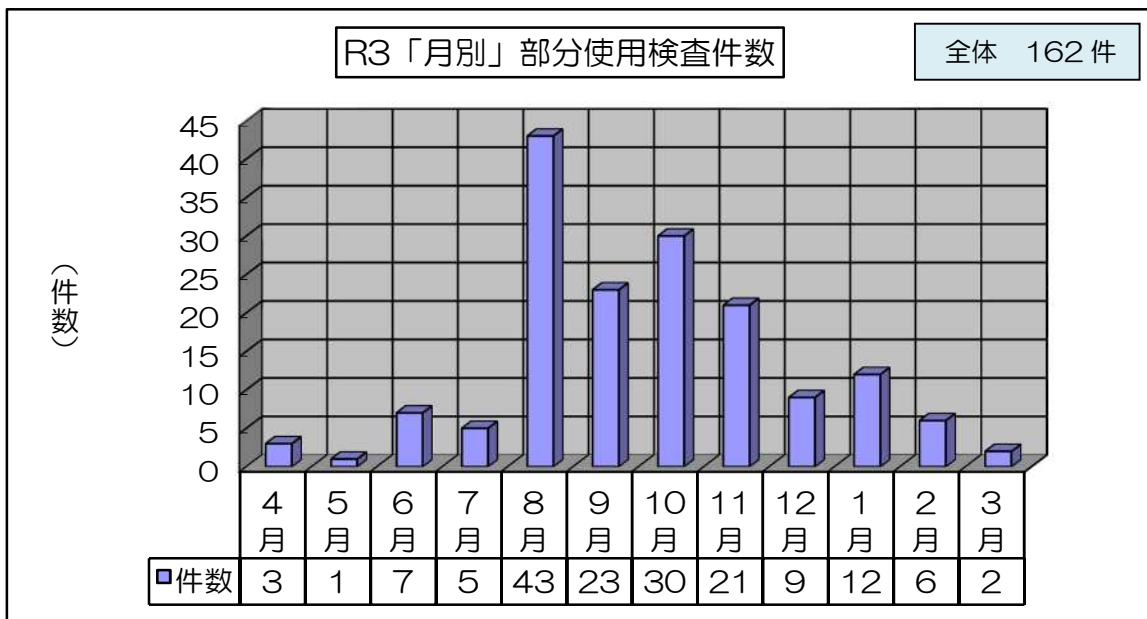


(c) 完済部分検査

実施しなかった。

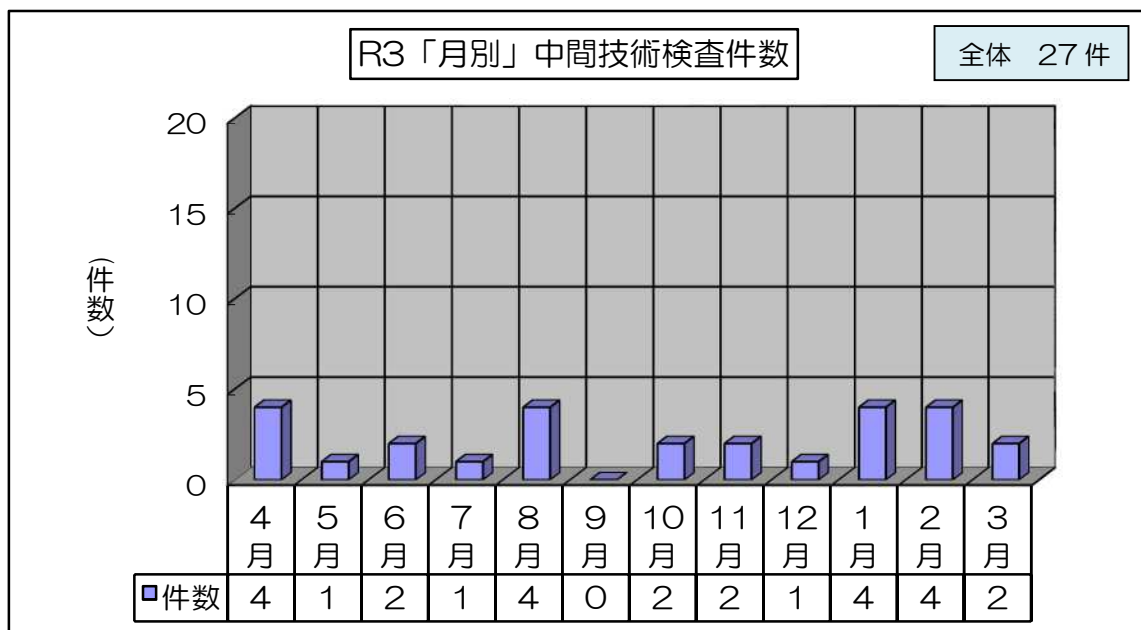
(d) 部分使用検査

学校の大規模改造工事によるものが多く、8月から11月に集中する傾向がある。



(e) 中間技術検査

品質の確保・向上のため、完了時点では不可視又は手直しが困難となる工事について確認を行うものであるが、年間を通じて行われた。



(4) 工事成績評定

(a) 平均点

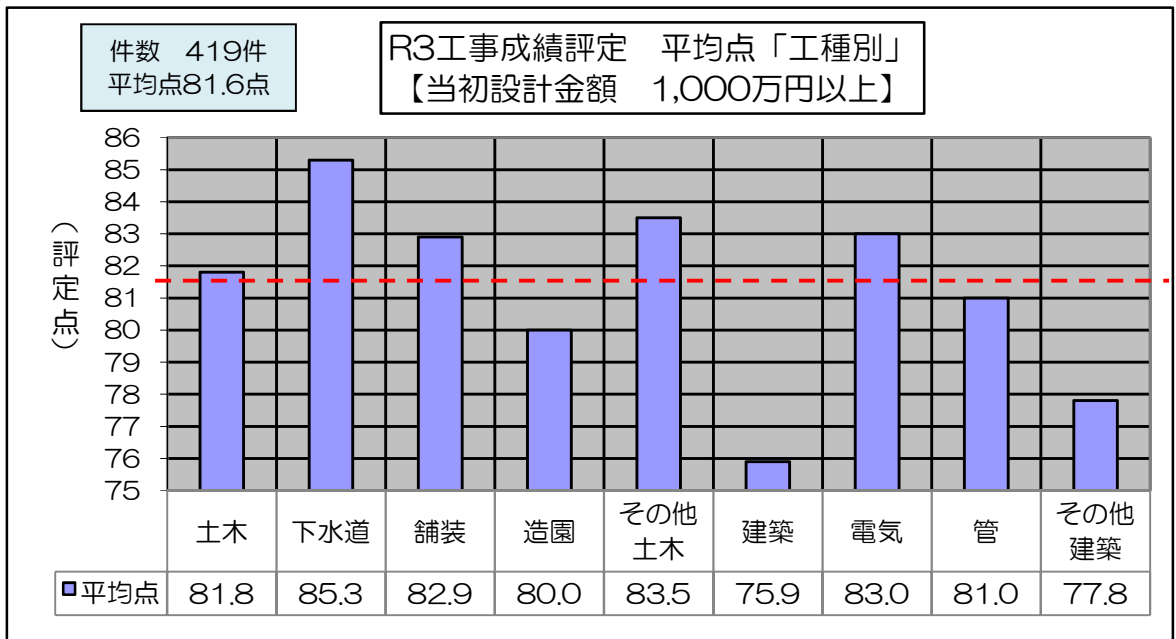
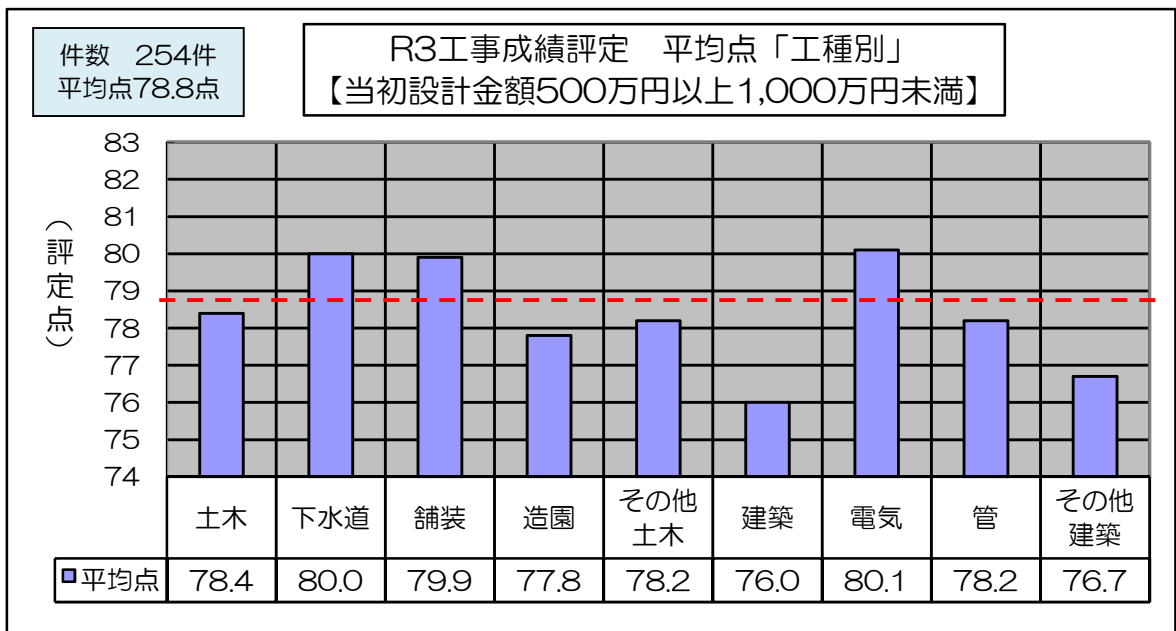
(単位：点)

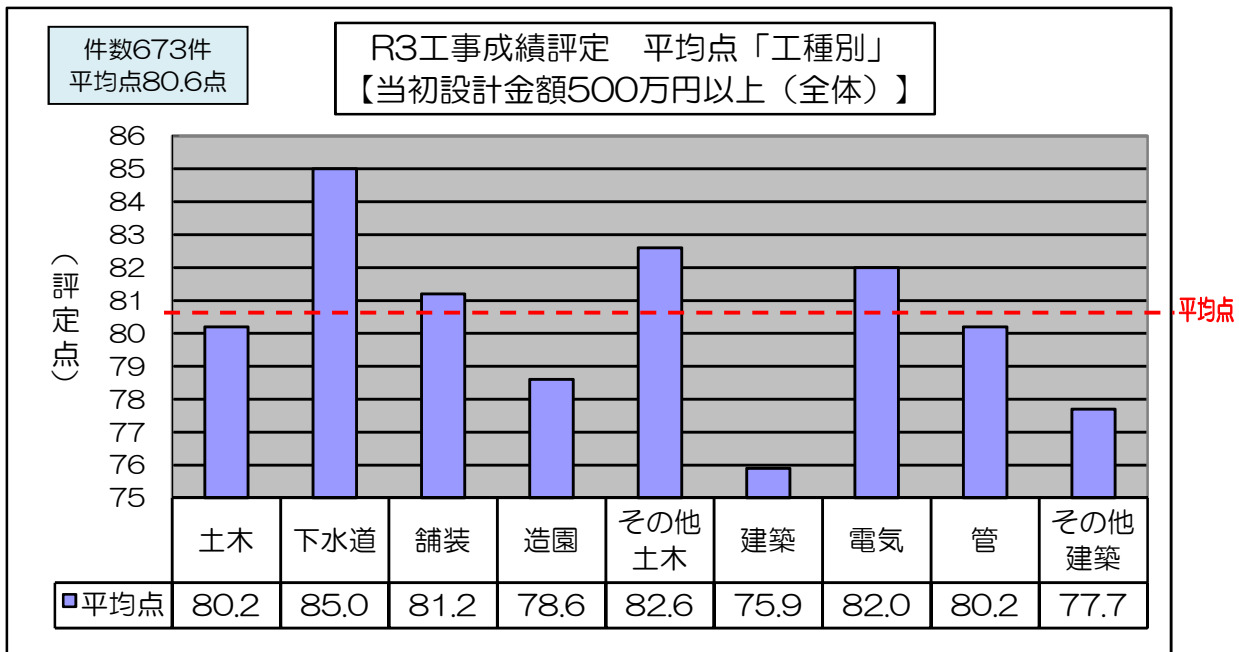
当初設計金額	500万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上	全体の平均
土木等 ※1	78.9	82.8	81.1
建築等 ※2	78.5	79.5	79.2
全体の平均	78.8	81.6	80.6

※1 土木等：土木・下水道・舗装・造園・その他土木

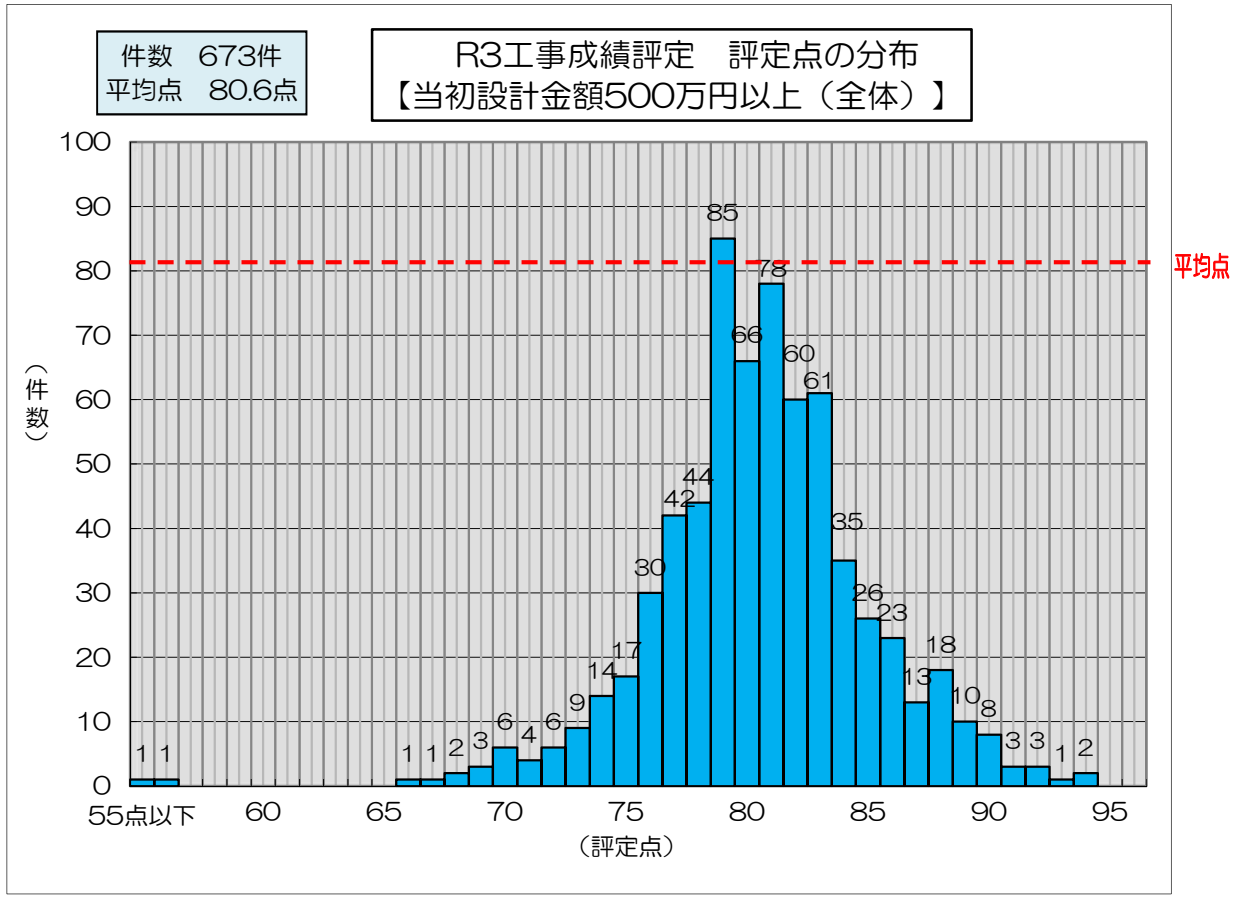
※2 建築等：建築・電気・管・その他建築

(b) 平均点「工種別」





(c) 評定点の分布

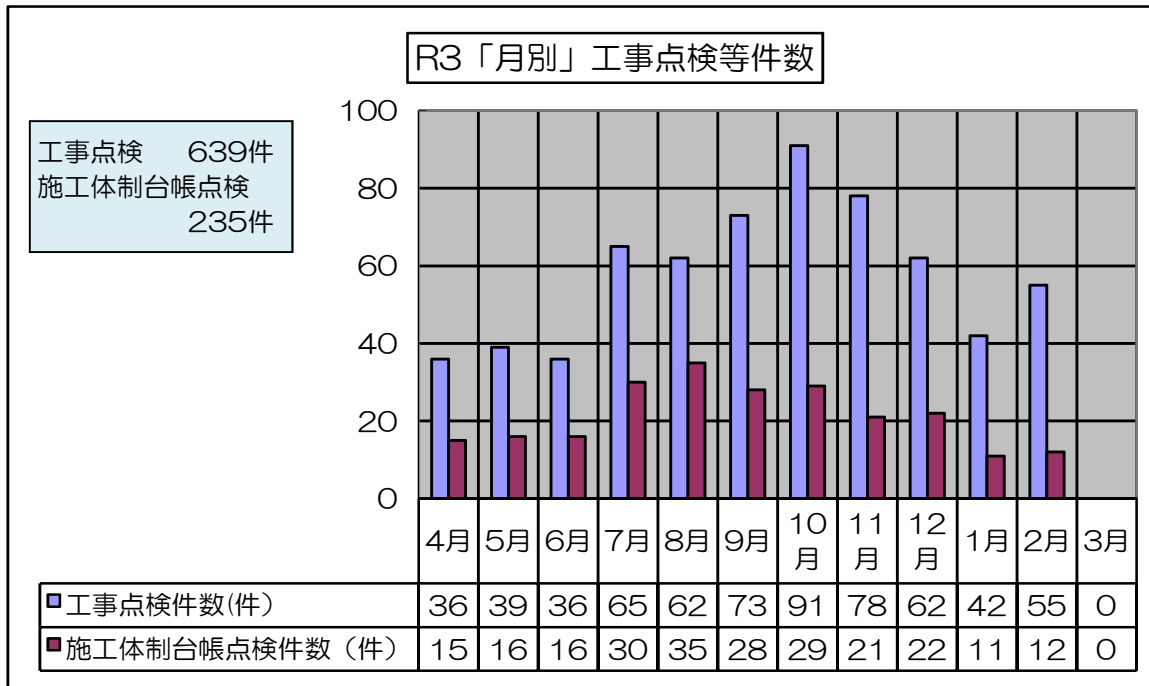


(5) 工事点検

当初設計金額 500 万円以上の施工中の工事に対し、実施している。

近年における改善指摘案件はなく、施工業者の意識向上が伺える。

工事点検を行った工事の内、施工体制の確認を行った工事の割合は約 37% であった。



<全国一斉点検>

例年 10 月から 12 月にかけて、国土交通省が主催する「公共工事の施工体制に関する全国一斉点検」に本市も参加し、専門検査員による点検を別途実施した。

令和 3 年度は、本市発注工事の中から 6 件抽出し、主に施工体制台帳や施工状況について点検を行い、公共工事における品質確保の向上に努めた。

(6) 技術協力

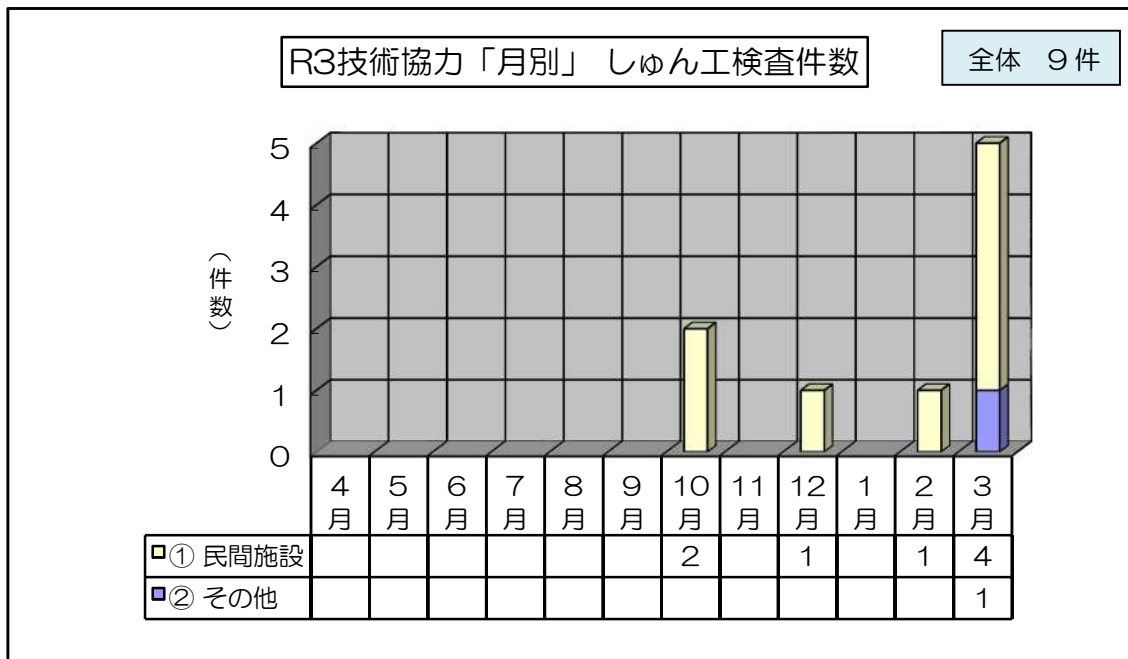
(a) しゅん工検査

① 民間施設工事（補助）【8件】

こども園等を5件、社会福祉施設を3件実施した。

② その他工事【1件】

一部事務組合である豊栄郷清掃処理組合の検査を1件実施した。



(b) 部分使用検査

実施しなかった。

(c) 中間技術検査

実施しなかった。

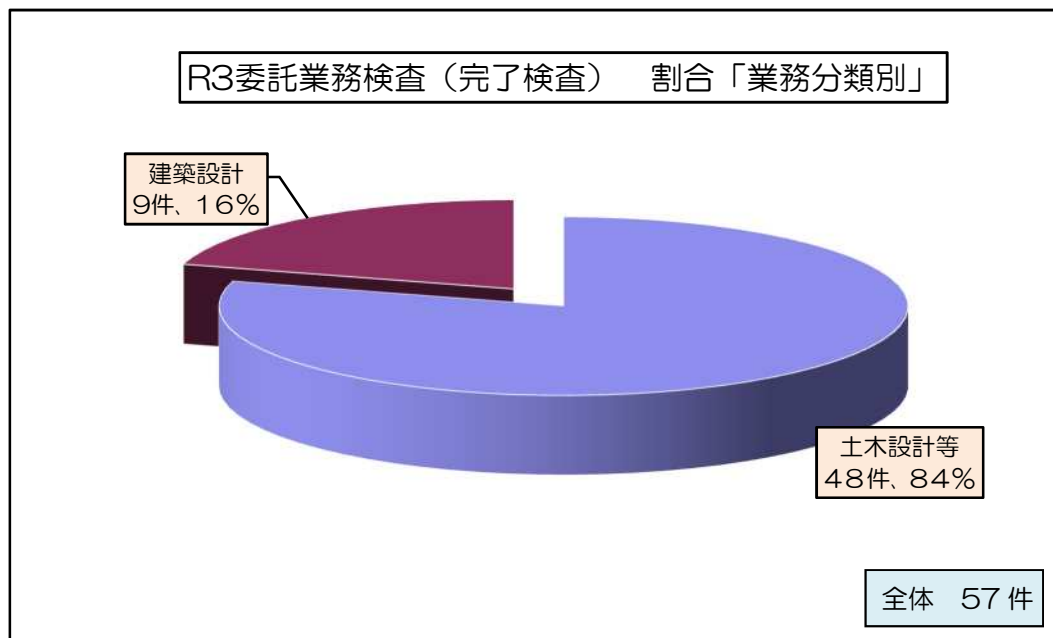
(7) 委託業務検査（完了検査）

当初設計金額 500 万円以上の委託業務について、完了検査を実施している。

令和3年度 (単位：件)

業務分類	件数
土木設計等	48
建築設計	9
計	57

(a) 割合「業務分類別」



(b) 成績評定の平均点 (単位：点)

当初設計金額	500万円以上
土木設計等	77.0
建築設計	69.0
全体の平均	76.0

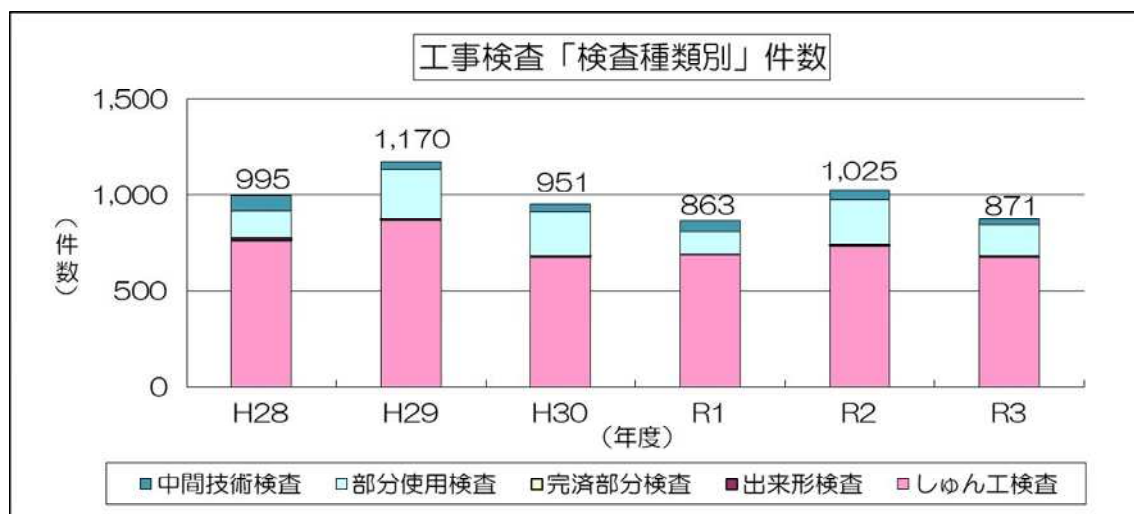
3 過年度の検査実績

(1) 工事検査

(a) 「検査種別」件数

(単位：件)

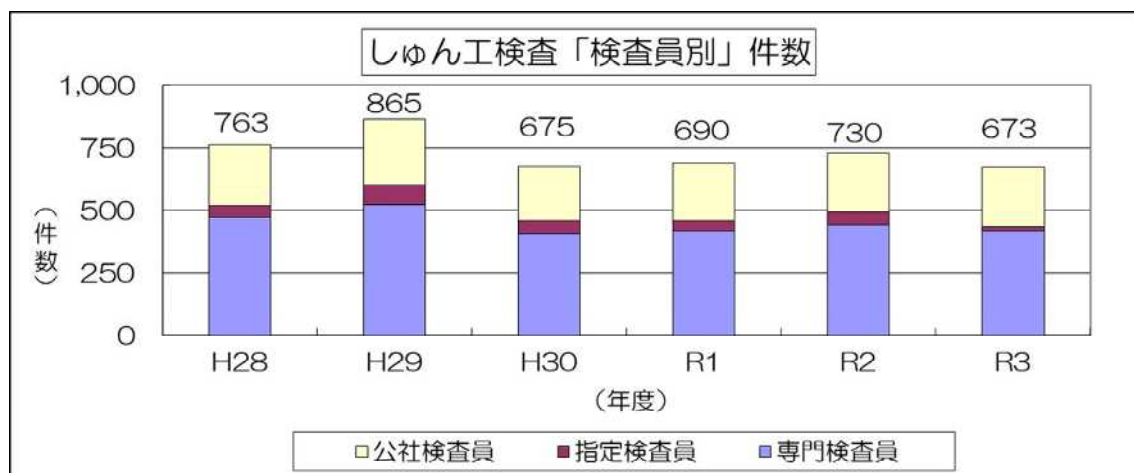
検査種類	H28	H29	H30	R1	R2	R3
しゅん工検査	763	865	675	690	730	673
出来形検査	12	8	7	2	11	9
完済部分検査	0	0	0	0	0	0
部分使用検査	139	256	228	114	232	162
中間技術検査	81	41	41	57	52	27
計	995	1,170	951	863	1,025	871



(b) しゅん工検査「検査員別」件数

(単位：件)

検査員区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3
公社検査員	244	263	216	230	238	238
指定検査員	47	80	50	42	51	16
専門検査員	472	522	409	418	441	419
計	763	865	675	690	730	673



(c) 年度末（3月期）のしゅん工検査

（単位：件）

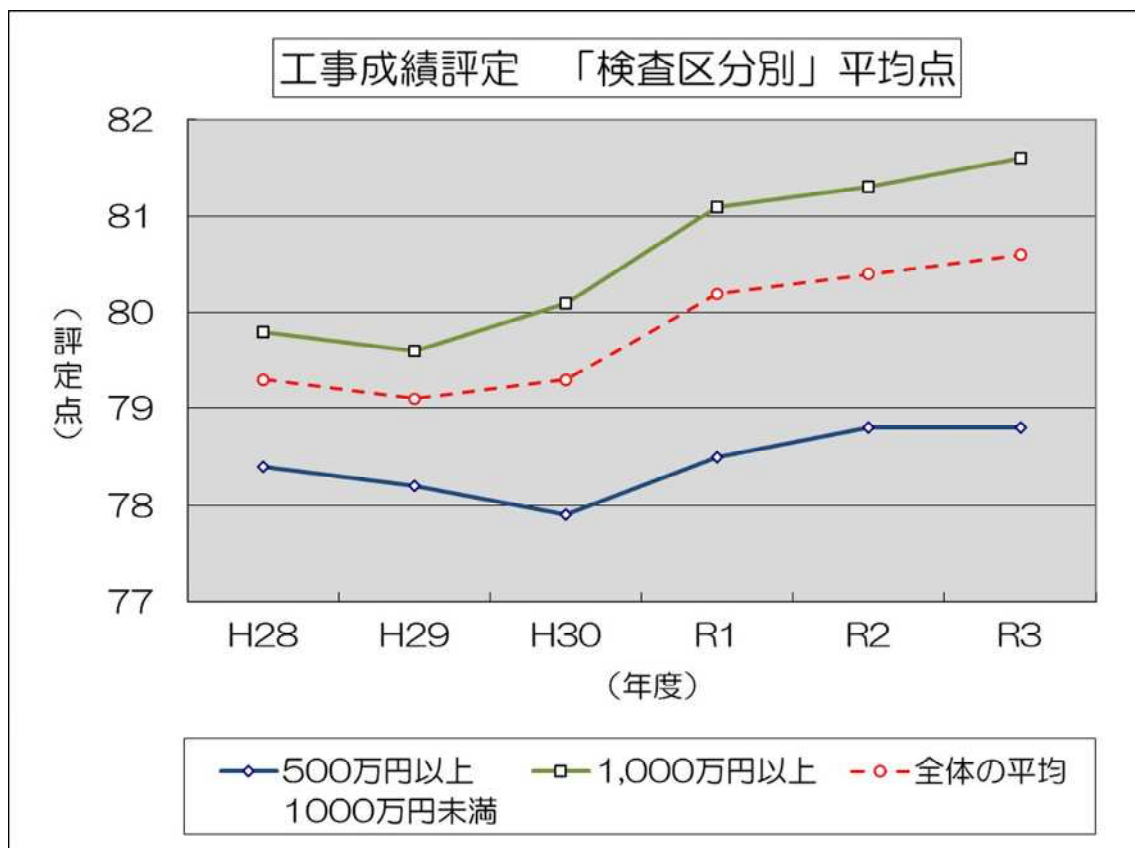
項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3
全体	295	306	197	192	224	160
うち指定検査員	47	42	33	21	32	0

(2) 工事成績評定

(a) 「検査区分別」平均点

（単位：点）

検査区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3
500万円以上 1,000万円未満	78.4	78.2	77.9	78.5	78.8	78.8
1,000万円以上	79.8	79.6	80.1	81.1	81.3	81.6
全体の平均	79.3	79.1	79.3	80.2	80.4	80.6



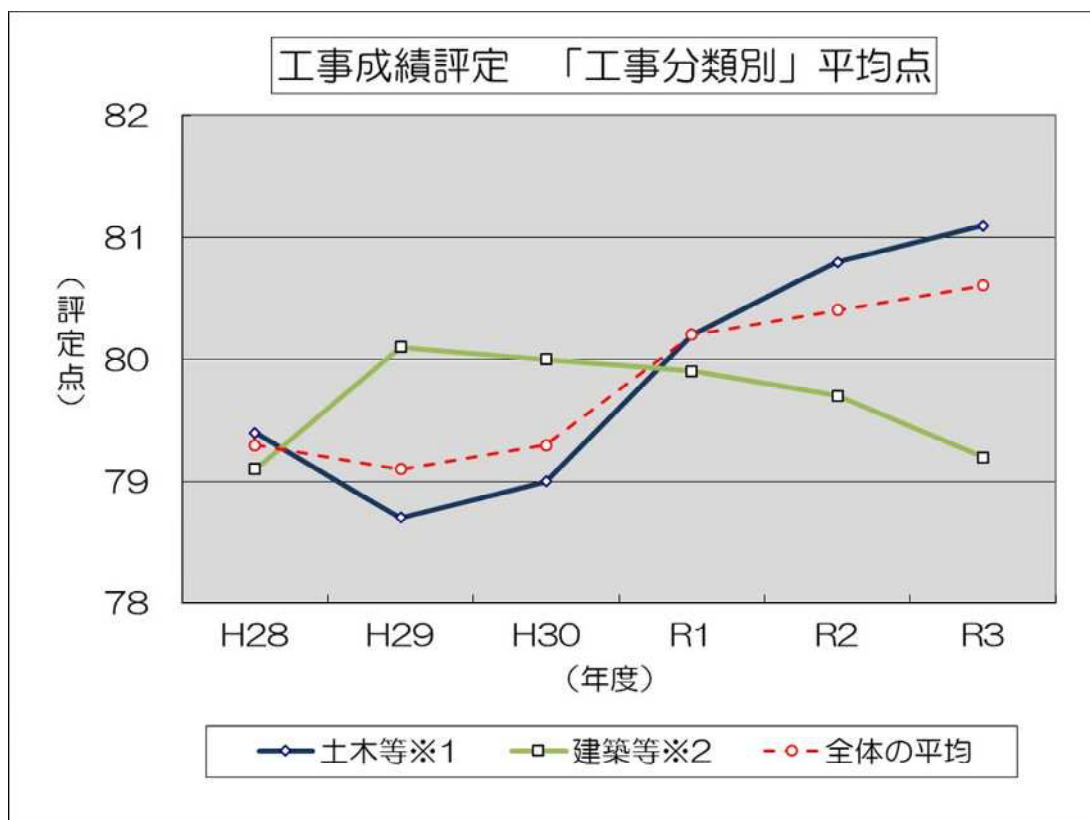
(b)「工事分類別」平均点

(単位：点)

工事分類	H28	H29	H30	R1	R2	R3
土木等※1	79.4	78.7	79.0	80.2	80.8	81.1
建築等※2	79.1	80.1	80.0	79.9	79.7	79.2
全体の平均	79.3	79.1	79.3	80.2	80.4	80.6

※1 土木等：土木・下水道・舗装・造園・その他土木

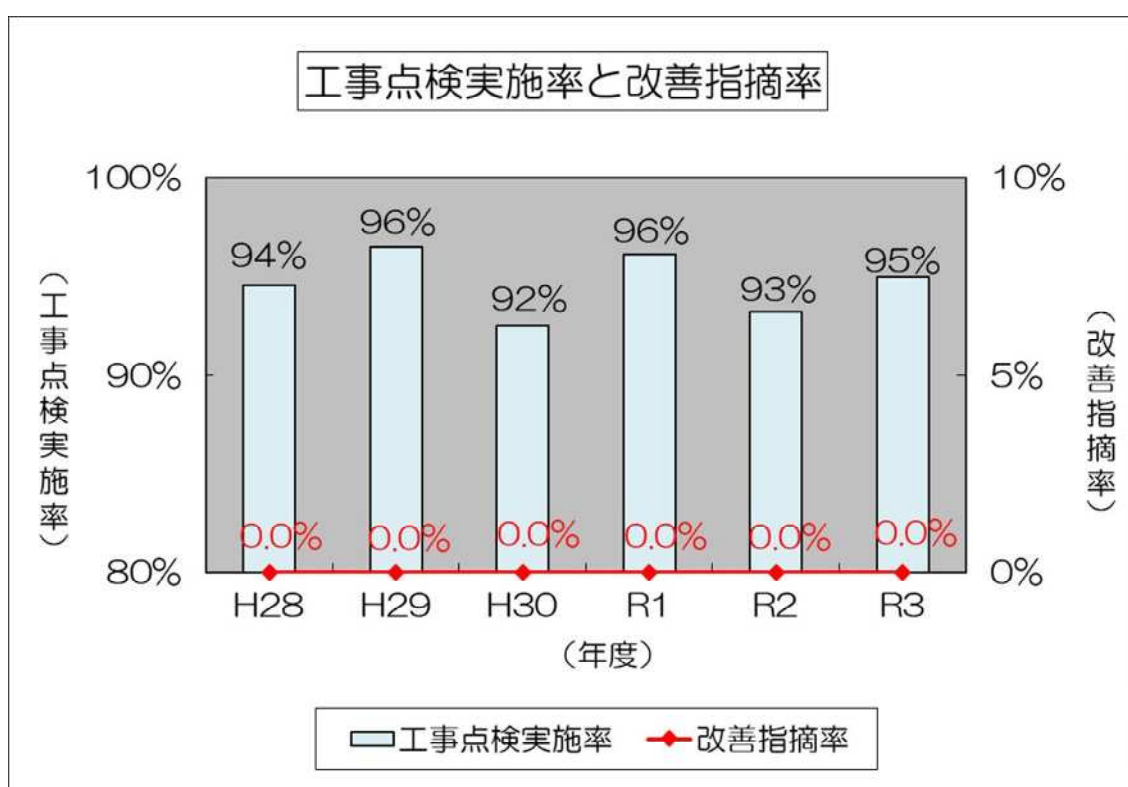
※2 建築等：建築・電気・管・その他建築



(3) 工事点検実施率と改善指摘率

(単位：件)

項目	H28	H29	H30	R1	R2	R3
しゅん工工事件数	763	865	675	690	730	673
工事点検件数	721	834	624	663	680	639
工事点検実施率	94%	96%	92%	96%	93%	95%
改善指摘件数	0	0	0	0	0	0
改善指摘率	0%	0%	0%	0%	0%	0%
施工体制台帳 点検件数	263	394	301	311	260	235



注) 工事点検は当該年度に施工中の工事について実施するため、繰越工事が多くなった場合、しゅん工工事件数を上回る場合がある。

(4) 委託業務検査（完了検査）

(a) 件数

（単位：件）

業務分類	H28	H29	H30	R1	R2	R3
土木設計等	52	50	52	58	62	48
建築設計	15	20	13	8	16	9
計	67	78	65	66	78	57

(b) 平均点

（単位：件）

業務分類	H28	H29	H30	R1	R2	R3
土木設計等	77.0	77.1	76.8	75.9	76.0	77.0
建築設計	72.6	70.2	68.1	67.8	67.0	69.0
計	76.0	75.3	75.0	74.9	73.9	76.0

第2 まとめ

(a) しゅん工検査 (P3、4、5、12、13 参照)

令和3年度のしゅん工検査件数は673件であり、前年度より減少した。月別のしゅん工検査件数を比較すると、土木・建築ともに、継続工事・債務負担行為設定等の活用が進み、年度末の集中が解消されつつあるが、年間における3月期の割合は約24%であった。令和2年度を除けば、3月期のしゅん工検査件数は、年々減少傾向にある。

工事の早期完了は、市民生活の利便性向上に直結するものであり、できる限り早期にその効果が発現されるよう最善を尽くすべきである。

そのためにも、工事担当課は、更なる早期発注、早期完了を徹底していただくとともに、年間を通じて、しゅん工検査の平準化を図ってほしい。

(b) 部分使用検査 (P6、10 参照)

令和3年度の部分使用検査件数は162件であり、前年度より減少した。また、例年同様に、学校の大規模改造工事等が多かった。夏休み期間中の8月から11月にかけて集中しているが、児童・生徒の安全や利便性を考慮したものである。

(c) 中間技術検査 (P6、10 参照)

令和3年度の中間技術検査件数は27件であり、前年度より減少した。工事完了時点で不可視となる部分、又は手直しが困難な工事については、中間技術検査を都度実施するので、検査員へ相談願いたい。

(d) 工事成績評価 (P7、8、13、14 参照)

令和3年度の工事成績評価の全体の平均点は80.6点であり、前年度より若干上昇した。

全体として、技術力が向上していること、「週休2日取得モデル工事」が増加していることなどが要因と考えられる。また、好成績を収めることで、総合評価方式の入札の際に優位となれることも影響しているものと思われる。

課題としては、工事分類別に比較したときに、土木の平均点は年々上昇傾向にあるのに対し、建築は下降傾向にある。この原因の究明と解消策の検証に取り組むこととしたい。

今後も評価を行う監督員、係長及び検査員は、より一層、公平・公正・厳正を心掛け評価にあたってほしい。

(e) 工事点検 (P9、15 参照)

令和3年度の工事点検件数は639件であり、前年度より減少した。

このうち、下請契約のある工事に作成等が義務づけられている施工体制台帳の点検は、235件と前年度より減少した。

令和3年度に行った工事点検時の改善指摘件数は0件であった。

(f) 技術協力 (P10 参照)

令和 3 年度の技術協力によるしゅん工検査件数は、民間施設工事(補助)を8件、公共施設工事を1件実施した。

(g) 委託業務完了検査 (P11、16 参照)

令和3年度の委託業務の完了検査件数は57件であり、前年度より減少した。成績評定の全体の平均点は76.0点であり、例年に比べ高得点を得た。

業務分類別では、土木設計等が77.0点、建築設計が69.0点と大きく差異が生じているが、これは評価項目や評価方法が異なることが要因であると考えられる。

<後 記>

- この工事検査概要が関係各位の目に触れ、本市発注の公共工事の更なる品質向上に役立てられることを期待したい。
- 工事検査課では、公共工事の品質確保を図ることを組織の目的に掲げ、効果的な検査業務研修の実施、検査員としての資質向上、検査体制の充実・強化などに積極的に取り組むこととしている。
- 建設業界では現在、高齢化とそれに伴う若い担い手不足が深刻化しており、こうした社会的課題に対応するため、i-Construction[※]による取組みの強化が図られている。本市でも、課題を整理し、国、県との意見交換を行いながら検討を進めていく。

※ i-Construction とは、国土交通省が進めている「全ての建設生産プロセスで ICT を活用しようとする取組み」のこと。国では、この i-Construction を推進し、建設現場の生産性を 2025 年度までに 2 割向上させることを目指している。施工の労働生産性の向上・データを活用した品質管理の高度化等を図る ICT 技術を、2022 年度末までに試行することや、働き方改革・生産性の向上の観点からも「建設現場における遠隔臨場の令和 3 年度の試行方針」の中で、中間技術検査での活用も試行することが示されている。